

防長の自然学散歩 2 - 「萩・笠山のミニ火山」

山口県にも活火山があることをご存知だったでしょうか？萩市市街地の北東海岸の陸繋島上に形成された「笠山」は、この地一帯の陸地及び海域に点在する40もの小規模な単成火山で構成されている「阿武火山群」のひとつです。

日本に存在する大部分の火山は、プレート境界の沈み込み部分に広範囲に分布する、所謂火山フロント周辺の火山です。

しかしこの火山群は、大陸や海洋底地殻のマントルに存在するマグマが、裂け目に沿って直接吹き上がったホットスポットと呼ばれるもので、日本では稀有な火山なのです。



「笠山火山」は標高が112m、噴火口が直径30m・深さ30mのミニ活火山です。1万年前に始った噴火は、当初粘度の低い玄武岩溶岩が次々に周囲に流れて低く平らな台地を造った後、最後に比較的粘度が高い安山岩溶岩がスコリア（岩滓）丘と呼ばれる小高い山を造り、名前の由来になった市目笠の様な形の半島に形成されました。この様な小さな噴火口は、まもなく風化して無くなるものなのですが、笠山の溶岩は温度が高く、吹き上がった火山灰が再溶結して硬く固まり、風化に耐えて現在まで残りました。

笠山周辺に広がっている溶岩台地には、2万5千本とも言われる「ヤブツバキ」の原生林が自生しており、1月から3月にかけて一斉に咲き揃って、可憐な景観を呈しています。ツバキ科の樹木は酸性土壌を好み、風化した石英玄武岩質の土壌に適合して繁殖しました。一方、当地が萩城下町の鬼門に当たるため、江戸時代に藩が樹木の伐採を禁じていた事も、大集落になった要因のひとつだとも言われています。

2月下旬から1ヶ月間「萩椿まつり」が開催されますので、その時期の観察がお奨めです。

また笠山頂上展望台より萩6島が俯瞰できますが、これらの島々は全体がテーブル状の「溶岩平頂丘」と呼ばれる他では見られない特異な形をしており、これも一見に値します。



笠山火口内壁の赤い安山岩溶岩



ヤブツバキ原生林内の遊歩道



市目笠の様な形をした笠山



笠山山頂からの望む溶岩台地と萩六島

【他のお奨めスポット：半島先端の溶岩奇岩、基部の天然記念物の明神池・風穴など】